

# Case Study

支部ケース・スタディ

東北支部

## 2年連続でオンライン開催された「オンラインみちYOSA」

### 仙台CATV(株)

放送制作部長

相澤 薫



### 1人の大学生の発案から始まった「みちのくYOSAKOIまつり」

「東北はひとつ」を合言葉とする「みちのくYOSAKOIまつり」。1998年に宮城県内出身で高知大学の大学生の1人が、大学祭で見たよさこい踊りに魅了され、「これを故郷の仙台でもやりたい！」という熱意に地元企業の経営者達が賛同し「みちのくYOSAKOIまつり」が開催されたのが始まりです。

今では仙台を代表するお祭りとなり、毎年全国から約8,000人もの踊り手が宮城・仙台に集まり、躍動感溢れる踊りを披露しています。弊社は第3回(2000年)開催からコミュニティチャンネルで生放送を実施。また同時にインターネットで全国に配信することにより、地元仙台のお祭りのPRとともに、全国から参加する踊り手の故郷の皆さんへもお届けすることができ、大変好評を頂いております。

### 3年連続中止の代替事業として、学生たちと動画配信イベントを開催

仙台の秋の風物詩ともなる「みちのくYOSAKOIまつり」は、2019年の大型台風により開催の中止を余儀なくされ、さらにその翌年から新型コロナウイルスの影響により、2020年、2021年と3年連続中止となりました。

2020年、2年連続中止が決まった際に、みちのくYOSAKOIまつり学生実行委員会(県内の大学生ユース)より、「みちのくYOSAKOIまつり」を支えてくださったチームの方々をはじめ、多くの関係者の方に何か還元することができないかという相談を受け、以前から弊社ではインターネット動画配信の実績があることから、祭学生実行委員と共にお祭りの代替事業として共同制作番組「オンラインみちYOSA」を実施することと致しました。

実施が決まったのが開催日の約3週間前、そこから学生実行委員と共同制作の番組作りが始まりました。「オンラインみちYOSA」は全国のYOSAKOIチームから演舞映像を募集し、各チームの踊りを「テレビとインターネット」で紹介する内容とし、最初にとりかかったのが参加チームの映像素材の募集です。「応募締切をいつまでにするか、募集期間が短いと集まらないのでは、しかし募集期間を長くすると本番まで編集が間に合わない」など、基本的なことを決めることから始まり、当時は時間がなく深夜遅くまで作業が続くこともありました。各参加チームから届いた映像は「オンラインみちYOSA」のために新たにホームビデオで撮影したもののから、過去のイベントで踊ったときの記録映像、中にはプロモーションビデオのように映像専門業者が製作したものなど、届いた素材は何一つ同じものはなく、また映像のサイズや音声レベルが整っておらず調整が必要でした。学生実行委員会の中にも簡単な映像編集ができるスタッフもおり、弊社スタッフと共に素材が届き次第、映像音声を調整する編集作業が本番前日まで続きました。

番組は学生実行委員が主体となり、司会や出演者、進行ディレクターなどを担当。弊社はコミュニティチャンネルの放送、インターネットLIVE配信、県内外の参加チームと中継を行うためのオンラインミーティングツール(ZOOM)操作など放送と配信に関わることを行い、本番時はスイッチャー、音声ミキサー、カメラ、テ

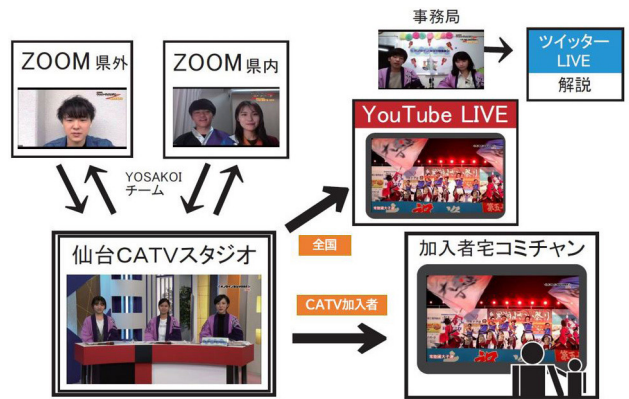
ロップなどを担当しました。

開催3日前、番組の司会を担当する学生実行委員会のスタッフが通う大学で新型コロナウイルスの陽性者が1名発症との報告があり、急遽司会の変更を行いました。今考えると濃厚接触者にも当たらない程度ですが、当時は学校から陽性者が出たというだけでも判断が難しく、極力感染防止に努めるなど対応を尽くしました。

いよいよ「オンラインみちYOSA」開催！実開催と同じく2日間開催し、全国から72チームが参加。番組は全国から届いた参加チームの演舞映像をコミチャンと同時にインターネットLIVE配信を行い、県内外のチームとスタジオをZOOMで繋ぐなど、弊社スタジオをキーとし番組を放送・配信しました。

また、スタジオから離れた場所にある「みちのくYOSAKOIまつり」事務所から、ツイッターLIVE配信(テレビ放送したのを見ながら学生実行委員が解説。NHK紅白の副音声のようなスタイル)を同時に実施しました。ツイッターLIVE配信では、各チームの解説の他、ツイッターやインスタで視聴者から寄せられたコメント等を紹介し、オンラインならではの配信方法(YouTube LIVE・ツイッターLIVE・ZOOM等)で、「オンラインみちYOSA」は、今までにない番組制作を行い、多くの方にYOSAKOIまつりの魅力を発信することができ、関係者全員が一丸となって無事成功を収めることができました。

翌年2021年、新型コロナウイルスの影響で残念ながらまたもや祭りは中止となり、前年同様にオンラインで開催。オンライン1年目の経験をもとに課題を修正しスタジオ内では総踊りのレクチャーや「みちのくYOSAKOIまつり」の歴史等をまとめたVTRを作成し、伝えることができました。



「オンラインみちYOSA」配信構成図



初開催した2020年「オンラインみちYOSA」の様子

## 2年連続でオンライン開催された 「オンラインみちYOSA」

仙台CATV(株)

Case  
Study  
支部ケース・スタディ



1年目の経験をもとに課題を修正して開催した2021年「オンラインみちYOSA」の様子

### 祭学生実行委員は後輩へ引き継がれ。2022年は実開催へ

「みちのくYOSAKOIまつり」は、県内の大学生が実行委員として活動しています。企画の創出から会場運営などを行い、お祭り運営には欠かせない存在となっています。

「オンラインみちYOSA」を終えて学生実行委員からは、「番組作り」も「祭り作り」もチームで一つのことを作る大切さを学ぶことができ、また実行委員同士の交流を深めることができた感想をいただくことができました。

学生実行委員は、毎年後輩へさまざまな活動を引継ぎ、次開催に向けて準備を進めているのですが、3年間中止となった現在、実開催を経験していない学生実行委員が多いのが、課題となっています。

「東北(みちのく)はひとつ」を合言葉に25年。2022年「第25回みちのくYOSAKOIまつり」は4年ぶりに実開催いたします(2022年8月現在)。

「老若男女が揃いの衣装を身にまとい、手には鳴子を持ち、地元の民謡をひっさげて」ここ仙台に集結します。YOSAKOIは踊る人・見る人・そして街に元気とパワーを与えてくれるお祭りです。ぜひ機会がございましたら皆さんも仙台へ足を運んでみてください。

(今年も弊社ではコミュニティチャンネルで生放送&インターネットLIVE配信を行います。)